ひょうたん水がうまれるまで

二十八歳の時　胃癌で余命三ヶ月の宣告

●手術も放射線も抗癌剤も使わないで六年後に完治

●地球のエネルギーを蓄えたものこそ生命の力

神河　照美

◆ 奇跡の体験

世の中には、奇跡と言われる事は、ままあるものです。それは、希望あふれる幸せな奇跡や**九死に一生を得た出来事**、不思議な怪奇現象、科学では解明できない現象であったりします。

そして、それらの奇跡が、それまでの常識や想定外の事になりますと、何らかの証明をしても否定される事があります。

私自身の「余命三ヶ月、たとえ手術をしても半年しか生きられないと宣告された『未分化型腺癌の胃癌』を、手術も放射線治療もせず、抗癌剤などの薬を一服も飲まずに完治した」と言う、奇跡の体験もそうです。信じてもらえないどころか「誤診に違いない」と否定され続けてきました。

しかしながら、私の「胃癌」の診断は、大分の内科胃腸科専門病院をはじめ、東京築地の癌センターや地元の健康保険病院などの公立の病院でも同じ診断でした。胃透視だけでなく十数回の内視鏡による生検の結果も同じでしたから、誤診であるとは考えられません。紛れもない事実である事の裏付けとして、疑う余地はないのです。

「治るはずのない癌が、一切の治療をしていないにも拘らず、どうして完治できたのだろう。何か有る筈です。一体何をしたのですか？」と主治医でさえ不思議がったぐらいですから、私の癌の完治は「奇跡」と言

えるものであると、私は思っています。

現在では、**癌は「死亡原因の一位」**となりました。早期発見、早期治療、様々な治療法が開発されていますが、医学的には**「癌は治らない」**と言われているのをご存知でしょうか？

「治った」と言われているのは、癌の病巣を取り除いたとか、制癌剤や抗癌剤等で再発を抑えて小康状態を保っている事だそうです。

現に私の知人は、八年以上前に早期癌の手術をして「治った」と医師より言われたものの、抗癌剤は飲み続けていました。定期検査を受けていましたが、結局、癌が再発し他界されました。いったい医師は何をもって「癌は治った」と診断するのでしょうか。

医学的な完治とは、手術をしたり抗癌剤等を使ったりして、癌が五年間発症しなければ「完治」と診断するのだそうです。しかしながら、五年以上経ってから再発した人もいるので、本当に「完治」と言えるのは「十年間お薬を飲まなくても再発しない場合」だと考える医師もいらっしゃいます。

私は、抗癌剤等の薬を飲んでいませんし、手術もしていませんが、**癌細胞が消え、「完治」の診断を受けてから、再発もなく四十年近く経っています。**（令和三年現在）

医学の世界では、五年生存率を一つの目安にしていますが、五年生きられればそれで良いのでしょうか？確かに手術や薬で何年かは延命するでしょう。高度医療を受け「治った！良かった！」と喜びます。しかしながら、最終的には本来の健康な姿を取り戻すことなく、死に至るケースが多いのです。

また、いつ再発するかもしれない不安、薬の副作用等による苦しみは計り知れません。私は、手術が怖かったですし、死ぬまで続く延命治療や経済的負担、自分だけでなく家族にも及ぶ肉体的、精神的な苦痛を乗り越える自信もありませんでした。

早期発見、早期治療をすることで、癌が治る確率が高くなると言われています。しかし、前述の方のように初期の段階で手術をし、放射線治療、抗癌剤治療をして治ったと言われても、薬を飲み続けた上に再発してしまうのです。つまり、医学が発達したとはいえ、癌になったら手術をして薬を飲み「如何に苦しみや痛みを少なくするか」「如何に一日でも長く生きられるようにするか」を、模索しているのが医療の現状ではないかと思います。（有名人の癌闘病記等にも語られています）

ですから、私の様に病巣を摘出する事もなく（手術をする場合は胃を全摘しなければならないと言われてました）癌が消え、更にかつて癌であったとは想像もできない

癌を発症した年の正月撮影

ほど、元気な姿を取り戻して四十年近く過ごしているというのが、「本当に治った事」なのではないでしょうか。数多くの患者を診てこられた主治医でさえ「私の他には、見た事も聞いた事も無い」との事でした。

さて、手術もせず薬も飲まずに、癌を完治したという奇跡的体験をした私が、様々な思いを込めてうみ出したのが「ひょうたん水」なのです。

ひょうたん水を開発した経緯などを大まかではありますが、次にまとめました。情報が巷に溢れる中で、ひょうたん水にご縁を頂いた方に、ご自分のお悩み等を解消する為の、よすがとして頂ければ幸いです。

◆ 二十八歳の時、胃癌で余命三ヶ月の宣告

私が、胃癌を宣告されたのは二十八歳の時です。進行が早く、転移も早いタイプの未分化型腺癌でした。受診した病院で余命に対する診断の差は有るものの、どの病院でも「手術をしても絶対に助からない」と言う事だけは同じでした。

私は以前より「癌になれば死ぬ」と考えていましたので、「手術して半年、手術しなければ三ヶ月の命」と宣告された時、死を覚悟しました。「数ヶ月しか生きられないのならば、体に傷をつけずに少しでも綺麗な体で死のう」と思い、手術はせずに、癌になるほどに溜めてしまった体の汚れを、死ぬ間際まで出来るだけ出していこうと心に決めたのです。その年の終わる頃が、宣告を受けた余命と同じという事もあり、一日の終わりにカレンダーに×印をつけ「あと何日生きられる」と数えて毎日を生きていました。

「手術もせず、制癌剤などのお薬も飲まずに癌と向き合う」と言う私に対し、主治医は「痛みを抑える事は出来るのだから、耐え切れなくなったら夜中でも構わないから、病院に来なさいね」と優しい言葉を下さいました。

苦しみに耐えられなくなった時に、受け入れてくれる病院があるという事は、私はもちろんのこと、支えてくれる家族にも大きな安心感を与えてくれました。また「とにかく食べなさい！食べる事が貴女の味方を増やす事になるのだから。スタイル等気にしないで食べるのですよ」とも言われました。

私は、先生のその言葉を必死に守り、ともかく食べました。

砂を噛む様な思いとはよく言ったもので、食べ物を口に入れて咀嚼しますと、味が無いばかりか本当にジャリジャリと砂を噛んでいる様な音と感触がしていたのです。ですから、食事をすると言うよりも「ともかく生きるためのエネルギーを、少しでも身体に摂り入れよう」という思いで、箸を口に運んでいました。

健康な時には重さ等気にもしなかったお箸が、とても重たく感じ咀嚼する一噛みが重労働に感じられ、食べるという動作が大変な努力を必要としました。ですから、少しでも噛まずに済む、お茶漬けを主に食べていました。

平成７年　織部主治医と私

◆「生きる為に食べる」から「癌を乗り越える為に食べる」へ

胃癌とわかって二ヶ月を過ぎた頃には、既に日に十回は嘔吐を繰り返す状態になっていました。いくら頑張って食べても、食事の大半は胃には残りません。それでも、栄養剤等の点滴をせずに済んだのは、嘔吐をしても残るわずかな食物が、体に力を与えてくれていたからだと思います。

宣告された余命を覚悟していた私に「癌を乗り越えて生きよう」という思いにさせてくれたのは、私が十六歳の時から、弟子として可愛がってくださった茶道の先生からの、巻紙に書かれた長いお手紙でした。

墨の香りの残る手紙を開くと「親より先に死んではなりません」「親より先に逝くのは一番の親不孝です」「何としても生きるのです」等の、茶道の切り柄杓のような先生の鋭く力強い文字が綴られていました。

その言葉に胸を打たれた私は、死に向かう生き方から、生に向き合う生き方へと思いが変わったのです。

しかしながら、今までの食事の仕方では、身体を維持するのがやっとです。「このままでは、癌を乗り越える事は出来る筈が無い。もっと力をつける方法はないだろうか」と考えていた時に、

「癌になった原因を体の外に出さない限り癌が消える筈が無い。人間はこの地球の上で、生かされ生きている。ならば、母なる地球が与えてくれる力を十二分に取り入れる事が出来れば、生命力は高まるとともに、活性力や免疫力は、自から高まるのではないだろうか。その力をつければ、癌の原因を排出できる様になる

平成 23 年　茶道の鎌田宗百先生と私

に違いない」と言う、当たり前の事に気付いたのです。

私は、噛む力がなくとも、その他の方法で大地のエネルギーを取り入れる方法はないものかと模索し、その結果「大地の力のあるものを煮出して飲む」という事を始めました。

◆ 体の力を高める材料選び

耐え難い痛みと高熱、嘔吐や吐血を繰り返す日々の中で、「**全ての病気は血の汚れから**」と言われているのだから、「**血液を綺麗で力のあるものにする事を主体にしよう**」と、考えました。

そして、三千年も昔から「大薬王樹」「一家に一本あれば医者要らず」と言われ、血液浄化の作用がある「**びわの葉**」を、まず選びました。

それから、浄血や造血作用があり、血行促進効果もある「**よもぎ**」を選び更に体毒を消すという「**どくだみ**」を加えて行ったのです。昔から、お茶などとして飲まれているものは、先人の知恵や体験の積み重ねの上で、現在に伝承されているのですから、何がしかの効果があるに違いありません。

びわの葉をはじめ、よもぎ、どくだみ等を煮出して飲み、薬としてではなく、体に力をつけるための飲み物として摂り入れました。

「この地球上に生まれて、生かされている以上、きっとこれらの植物のエキスが、私の体に本来の姿を取り戻す為に、必要な地球のエネルギーを与えてくれるに違いない」と信じ、続けたのです。

◆ 長くて短い六年間

嘔吐や吐血、発熱に貧血。絶え間なく続く激痛。辛い状態は六年間続きました。

数年間は、一日に十回は嘔吐していましたので、少なくとも一万回は嘔吐した計算になります。苦しみが体を襲う度に癌を発症した自分の体に対するお詫びをするとともに、両親に対して心配をかけることのお詫びをしました。「何時になったら治るのかしら?」とか、「ああ苦しい。いつまでこの苦しみが続くのかしら?」などという思いを抱いた事は、六年の間にただの一度もありません。何故なら、知るや知らずに拘わらず、苦しみの原因は他でもない自分自身が積み重ねたものであり、その原因を体から出すことで少しでも解消して行けるのならば、嘔吐や吐血、痛みさえも「良くなるための一歩である」と自覚していたからです。

幸いにも私は、癌を乗り越える事が出来ました。治療を受ないのに定期検査をして下さり、精神的に支えて下さった医師の存在。周囲から「なぜ手術をさせないの」と言われても私の意思を尊重して支えてくれた母や兄姉の存在。そして、子供のころから「辛い顔を人に見せるものではない」と厳しく育てられたことは、今思えば癌を乗り越える力となっていたと思います。

癌になって三年目、風邪をこじらせ、気管支炎、肋膜炎、腎炎、肺炎、敗血症、尿毒症を併発し、一週間入院しました。この時、母は、「最期の看病だと覚悟をした」と後に聞きました。しかし、半年の養生の後、奇跡的に回復し、築地の国立癌センターで検査をする事になりました。数日間にわたる検査の後、診断結果を聞いた折に、私は「あとどのくらい生きられますか?」と尋ねました。担当医は「悪性で非常に転移が早い癌が見つかりま

したが、三年前の大きさと変わりがないので、あと五年や十年は大丈夫です。生きられますよ」と言われたのです。その言葉を聞いて私は直ぐに、癌センターの公衆電話から九州の母に電話しました。

「お母さん。あと五年、十年は生きられるって！」と診断結果を伝えた時、涙が溢れ出しました。電話の向こうで、涙を見せた事のない母の咽び泣く声を聞きながら喜び合った時の事が、昨日の様に思い出されます。何しろ、三年前には、一ヶ月で四倍の大きさの癌になり「もうこれ以上成す術はありません」と主治医から言われていた程だったのです。その癌が三年前の大きさに戻っていたのですから、母の喜びと安堵の思いは測り知れません。

それに比べて、その約三年後に癌完治の診断結果を告げられた時は「やっと結果が出た。自分の考え方や、手段方法に間違いはなかった」と冷静に受け止めることができました。

その後、主治医から「君の癌完治の症例を学会で発表したいと、後輩の県立病院の外科部長から話が来ているが発表しても良いか」と打診された時、不思議な事に「学会で発表されるという事は、私は間違いなく癌だった。誤診ではなかった」という思いが沸き上がって来ました。

余命三ヶ月の癌と宣告され、癌だと分かった上で、癌と言う病気に向き合ってきた筈なのに、自分でも気付かない心の奥底では、癌である

診断書

住所 大分県佐伯市 蒲江町 8023 番地

氏名 神河照美 性別 男・女 生年月日 明・大・昭 27年 7月 16日生

傷病名 胃癌

上記者 昭和57年10月13日初診。胃内視鏡検査及び組織診断により低分化型腺癌による早期胃癌の診断を得た。
これは前庭部陰性癌センター(甲第)の診断と一致している。しかし一切の治療行為を行わなかったためわからず、昭和63年9月16日30時に何度検査しても癌細胞認めず、消滅したと記載。
これは日本無医村で発表した。当事母に胃内鏡検査をしたのは昭和63年12月2日

上記のとおり診断いたします。

昭和57年5月18日

大分市浜町736-5 TEL (2)2377 代表

織部内科病院 織部博美

胃癌治癒証明書

という診断」を信じ切れていなかったのです。

癌の症状として、激痛とともに、体力がどんどん衰えていきました。ある時、タクシーに乗り込んだ私の尋常でない姿を見た運転手が、救急病院に連れて行こうとしたことがありました。また、激しく嘔吐をして、足腰が立たなくなるほど衰弱し、階段を数段上がるのも数十メートル歩くことも辛く、辿り着いた先で気を失ったこともありました。このような姿を見た事のない人や、今の私の姿しか知らない人が、一様に「誤診だ！誤診に違いない！」と言うのは無理もない事だと思います。

しかし、癌が完治するまでの六年の間に、一回につき数か所組織を採る生検が十数回行われました。病理学の専門医の細胞検査の結果は「癌である」との診断でしたので、間違い無い筈です。

ならば、私は間違いなく癌であったのであり、その癌を乗り越えようとして、私なりに**「地球のエネルギーを取り入れてきた事は、自分の体を少しずつ本来の姿に取り戻すことだったのであり、その積み重ねが癌完治に繋がる結果を導き出した」**と結論付けられると思うのです。

もちろん、植物の葉を煮出して飲むと言う事は、私が癌を乗り越えるために行った方法の一つに過ぎません。癌という病や死に直面している時の考え方、痛みや苦しみとの向き合い方等、自分の内面を深めて行くことも治癒に至る要因として大きかったと思います。

今までの自分の考え方や行動が本当に正しければ、悪い結果や自分の望まない癌等の病気になる筈がありま

せん。ですから、良いと考えていた事が本当に良いのか悪いのか、一つ一つ再考し修正していかなければ、悪くなった生き方を根本から変える事は出来ないのです。一時的に良くなったとしても、病気になった生き方、考え方を修正是正しない限り、再び苦しむ事になってしまうのではないでしょうか。

◆ 母の死と、愛する人達の健康を願う思い

奇跡は、誰にでも起きるとは限りません。私の癌が完治してから数年後に、母が子宮癌で他界してしまいました。私の癌とは場所も症状も違いましたし、母と私の考え方の違い等は、今となっては知る由もありません。

自分自身の死については覚悟が出来ていましたが、かけがえのない母の死は日一日と悲しみが増すばかりでした。その悲しみは、時が経つにつれ「誰であっても、癌になって欲しくない」「癌で、愛する人や大切な人を失いたくない」と言う思いに変わって行きました。

そして、私は、自分自身の長く辛く苦しかった癌の体験を生かして、本来の健康な姿を取り戻す事が出来るものを、効率よく体に取り入れる方法はないだろうかと模索し始めたのです。

その方法が見つかれば「健康なうちから病気にならない体づくりが出来るのではないだろうか」また「たとえ病気になっても、病気の原因を体外に排出する力を高めるものが出来れば、少しでも辛い思いや苦しい思いを軽くする事が出来るのではないだろうか」と考えたのです。

左から母、私、姉

◆「ひょうたん水」の製品化

私は、出来るだけ手軽で簡単に自然エネルギーのエッセンスを摂り入れる方法はないかと考え始めました。と言いますのも、癌を乗り越える間に、びわの葉、どくだみ等を煎じて、お茶として飲んでいましたが、手間がかかる上、傷みやすかったのです。

材料の選別から配合や作り方等を試行錯誤する日々が続きました。

最終的に、ひょうたん水の材料が、よもぎ、どくだみ、びわの葉、柿の葉、桃の葉、みかんの葉と塩に決まりました。古来より知られている草木ですが、私は何かに導かれるようにこの材料を選び出し、独自製法と手順で、ひょうたん水を生み出す事が出来ました。

ひょうたん水を製品化して間もなく、物質の波動エネルギーに詳しい方から「何故、この材料を選んだのですか？どれも宇宙エネルギーを蓄える力の強い植物ばかり選んでいますが、知っていて選んだのですか？」と尋ねられました。

私は、波動値の知識等ありませんでしたので、ただ驚くばかりでした。

開発に着手して製品化されるまでの八年間、研究し悩んでたどり着いた材料が宇宙のエネルギーの非常に高いものであり選択が正しかったことを知らされ、辛く長かった日々が一瞬にして大き

一枚一枚手摘み選別作業

な喜びに変わりました。

「味や匂いが馴染めない」等のお声はいただきますが、「体内に入れて力のあるもの」と言う事に主眼を置いて作りましたので、飲み易くするための香料や甘味料、また、保存料等は、一切添加していません。

「良薬口に苦し」と諺にもあります。ひょうたん水はお薬ではありませんが、飲むことで、体に良くなるためのエネルギーを与えてくれます。それぞれの材料は、太古の昔から薬草として使われてきたものばかりです。

何百年何千年もの間、人類が積み重ねた知恵を、ご自分の健康の為、活かして頂ければと思います。ひょうたん水を飲用され、使いこなされることで、様々に感じたり現れたりした結果を追いかけて、使い続けて下さい。

◆「今までに存在しないもの」と理学博士に言わしめた『ひょうたん水』

ひょうたん水の材料は、古くから日本で親しまれて来たものばかりです。そして、原料の一つ一つは科学的にも様々な効果が立証されています。

また、筑波にある川田研究所が、「ひょうたん水」のエネルギー値を計測した結果は、**「波動値プラス二百、周波数ゼロ」**と言うものでした。

研究所の理学博士は「今までに、この様なデータを持つものは世の中にありません」「そんな筈は無いと、何度計測しても同じ結果が出るので、データに間違いはありません」

「ひょうたん水は、波動測定器では限界値を超えて計測が出来ないほどに生命エネルギーの高いものです。今までに無いものです」と驚かれました。

この夢のような科学的データは、何度も挫折しかけながら「ひょうたん水」を生み出した私にとって、大きな自信となりました。

先生の仰った「ひょうたん水は、今までに無いもの」という証の一つとして、次のような事があります。水でも時間が経てば腐るというのが常識ですが、有機物を煮出し防腐剤を添加していないにもかかわらず、二十八年前に作ったひょうたん水が、今でも腐っていません。

弊社で常温保存してあるひょうたん水がその証拠です。着色料や安定剤を添加していませんので、ロットで多少の色の違いはありますが、それは、材料の個性的な色です。

右端 1997 年当時のひょうたん水から
左端 2020 年当時のひょうたん水まで

私は、一人でも多くの方々に、この大自然のエネルギーに満ちた「ひょうたん水」の力をより具体的に知って

頂くために、ニュースや広告などで話題となっていた、酸化や抗酸化力について調べました。

日本食品分析センターに分析試験を依頼したところ、抗酸化力も有る事が分かりました。

つまり、活性酸素を還元し、活性酸素による被害を修復する力があるという事です。

ひょうたん水を使用することで、活性酸素の蓄積による様々な疾病の原因となるものを軽減する可能性があるという結果なのです。

※補正値は、銀/塩化銀電極で測定した実測値を標準水素電極の数値に補正したもの。

◆ 不安のない人生を送る為に

私が癌を完治した時に、主治医から「君は、数年間頑張って、そして、一生不安のない人生を送れるのだね」「癌になった所まで戻ったのではない。遥か上まで上がったのだよ」と言われました。この言葉は、私の胸に深く残っています。

癌になるという事は、健康状態から行くと、マイナスの状態になっている事です。

癌が治ると言う事は、ゼロ地点に戻る事であり、プラスは、それ以上の健康状態になったという意味なのです。

もちろん、**良くなる為には、悪くなって行った原因を見極め、その一つ一つを体の中に新たに入れない努力と、既に体の中にある原因物質を、体外に出す努力をする必要があります。**

苦しみや悩みの原因を、一つ一つ解消して行かなくては良くなる筈はありません。

私の経験からも、悪くなった原因は肉体的な目に見えるものだけでなく、精神的、心的なものや目に見えないものもあると、実感しています。

月刊誌に掲載された私の癌体験記事

◆ 本来の健康な姿を取り戻したいと思いませんか？

特別に悩みをお持ちでない方も、悩みをお持ちの方も、今のあなたの状態が本来の姿だとお思いですか？もしかすると、もう少し自分の健康に対して向き合い考え方を変えて行動することで、今より良くなったり希望が持てるようになるかもしれません。「もう、何をしても、変わることはない」「これ以上良くなることはない」等と諦めたりしていませんか？諦めたらそこで終わりです。

「ひょうたん水」に出会われたあなたには、最後の最後まで諦めないで頂きたいのです。
何故なら、ひょうたん水を使いこなし使い続ける事で、多くの愛用者の方々が、まるで「ひょうたんから駒」の喜びの結果や驚きの変化を手にしているからです。このことが「ひょうたん水」の名前の由来です。

私は、赤ちゃんから年配の方まで、男女を問わず、量の制限もなく、好きなだけ使えるもの、使い続ける程に元気になれるものが、安心・安全なものだと考えます。
そして、本当に体に良いものは、本来の健康な姿を取り戻してくれるものではないかと考えます。

是非、化学添加物の入っていない、大自然からの贈り物である「ひょうたん水」で、本来の姿を取り戻していく為のエネルギーを、体に取り入れて頂きたいと思います。
何といっても一番の愛用者は、ひょうたん水を開発し製造している私自身かも知れません。三十以上の病歴を持つ私自身が、本来の健康な姿を取り戻そうと、ひょうたん水を使いこなしていますが、六十七歳を迎える今では、知人から、「元気そうねぇ」「いつまでも若いわねぇ」「本当にお化粧していないの？」「老斑がないわね」「髪は染めていないの？」「日焼け止めはしていないの？」等と言われることが多くなりました。
本当に嬉しい事です。

◆ お願いしたい事

縷々お話ししました通り「ひょうたん水」は、今までにないものですし、今までの常識では計り知れないものです。馴染めない事もあるかもしれませんが、既成概念に囚われないで下さい。

今までの常識で判断して「良い、悪い」あるいは「自分に合う合わない」等と自己判断しないで、気になる事など、お気軽にお問い合わせ下さい。

数多くの商品がある中で「ひょうたん水」にご縁をいただいたあなたが、「本当にそんな病気だったの？信じられない！」「若々しくなったみたい」「なんだか最近綺麗になったわね」「以前に比べて生き生きしているわね」等々と、**ひょうたんから駒**の喜びの結果を手にする日を目指し、大自然からの贈り物「ひょうたん水」の力を、ご自分のものとしていただきたいと思います。

あなたが望まれる結果を一つでも手にしていただくためにも、**ひょうたん水をお使いになっての変化を見極めて下さい。一見、良くないように見える変化は、実は良くなる為の第一歩ということもありますので、「合わないのではないだろうか」と自己判断をされずに気軽にご相談下さい。そして、結果を追いかけ、ひょ**

うたん水を使いこなして使い続けていただければと思います。ひょうたん水をご愛用下さっている方々の体験では、小さな結果を見逃さずに見極めることが、次の良くなる一歩へとつながっています。そして、その結果の一つ一つを積み重ねることで、あなたが望まれる喜びを手にしていただけると信じています。

お悩み等を解消するために、ひょうたん水を使いこなしてみようとお考えの方には、私の経験体験などを交えて、ひょうたん水の使い方をアドバイスさせて頂いています。

私の体験が、一人でも多くの方の笑顔に結びつく力となる事が出来れば本当に嬉しく思います。

私の癌や、それ以外の病気の体験、ひょうたん水の詳しいお話は、今後も、私のホームページやオフィス神河のホームページでお伝えして行く予定ですので、ご覧下されば幸いです。

また、愛用者の方のホームページ「ひょうたん水クラブ」は、愛用者の方々の情報交換が、気軽に出来るサイト作りをされています。この場を借りまして、愛用者の皆様に感謝と、今後、より楽しいサイトに発展されます事をお祈り申し上げます。

最後に、**原因のない結果はありません。**自分の命を他人任せ、医者任せにするのではなく、自らの責任で**「自分の病は自分で治す」**という覚悟が大切です。このことは、私が自分自身に言い聞かせてきたことでもあります。

私は、癌を乗り越えて、得た人生の時間で、「ひょうたん水」の愛用者の方々との出会いの他にも、お箏やお茶、声楽などの趣味、法人会など地域の活動を通して、多くの方々と出会う事が出来ました。

そして、癌になる前よりさらに有意義なる人生の道を歩むことが出来ています。

皆様にも、今ある苦しみや気になることなどを「ひょうたん水」を使いこなしながら解消して、喜び溢れる人生を送っていただきたいと願っています。

私の体験を通して、ひょうたん水が出来るまでをお話して参りましたが、最後までお読み下さいまして誠に有難う御座いました。

私の思いが、貴方様のお心に少しでも届きましたならば幸いです。

神河照美